

岩手県盛岡市の農家を訪問

果樹園にグリーンフレーカー

果樹園の剪定枝処理に三陽機器(岡山県浅口市)が発売の樹木破砕機「グリーンフレーカー」が活躍して注目を集めている。クラス最大の処理径と最速の処理能力を有しているながら、低価格で求めやすいことが人気の要因だが、「作業中、詰まりや跳ね返りがなく使い易い」「生木でも乾いた木でも容易に処理できて便利」など現場から上がる高い評価の声も見逃せない。ユーザーの一人、ブルーベリーやリンゴ園で同機を使用する岩手県盛岡市の農家・峰崎勇一さんに感想を聞いた。

野焼きが禁止され、剪っている。果樹農家にとってこれに代わり、洋ナシ40センチ、リンゴ定枝の処理が困難になっては痛いところだが、逆定枝をチップ化、堆肥やウ30センチを経営する専業農機材は「樹の詰まりや削マルチング資材として」家・峰崎勇一さんもその

材/時。油圧駆動により破砕物の送りスピードを自由にコントロールでき、チップ片も用途に応じたサイズを実現できるのが特徴だ。

峰崎さんは同機を導入する前には別のチップパーを使用していたが、その機械は「樹の詰まりや削る時の跳ね返りがひど

また峰崎さんがグリーンフレーカーを約10センチも受け、チップにして圃に撒きました。ニュージラランドへブルーベリー栽培の視察に行きましたが、同様に松を破砕し、厚さ50センチほどのマルチングをし、その中に根を張らせています。チップの利用法について峰崎さんは「雑草対策、堆肥、パークなど使い方はいろいろあると思う。雑草対策に使えること



最大処理径はこのクラスで最も大きい㊦。用途に応じた最適チップ片ができる㊧

雑草対策に威力

三陽機器の安全で使い易いと評価 樹木粉砕機



盛岡市の峰崎勇一さん

一人。JAいわて中央郡南支部洋ナシ部会役員、北支部農業生産組合理事なども務める篤農家だ。峰崎さんが剪定枝のチップ化に現在使用している樹木破砕機は「グリーンフレーカーGF150TR」。トラクタマウント式で、最大破砕径150センチ、処理能力は3立方

いるのは、チップサイズを思い通りに微細にできる点。地域で広く栽培されているブルーベリー用マルチング材を作るのにもってこいのためだ。峰崎さんは今後、グリーンフレーカーで処理したチップ片をブルーベリーの圃へ撒く際には、変細かいので、ブルーベリーの根を守るには最適。購入後すぐに、雑木

詰まりや跳ね返りがなく安全に破碎作業ができる
グリーンフレーカー

サイクルし、生産に役立つようという動きが活発化している。

盛岡市黒川でリンゴ園を営む峰崎さんは、40センチ、ブルーベリー30

適。購入後すぐに、雑木とで、病害虫対策にも役立つ。購入後すぐに、雑木とで、病害虫対策にも役立つ。